

国立大学法人千葉大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」という理念の下、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命としている。第2期中期目標期間においては、総合的で高度な個性ある教育プログラムと最善の環境の提供による有為な人材の育成や世界的な研究拠点を育成し、基礎研究から応用研究までを自由な発想に基づき重層的に推進すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、グローバル化に向けた学事暦の柔軟化、高校生を対象とした早期教育プログラムの実施による高大接続の促進、学生と地域住民の協働による地域課題の解決に向けた取組の推進等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、次のような戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

- 主体的な学びを通じて課題探求能力を備えた「考える学生」を創造することを目指した計画を定めており、平成26年度においては、コンテンツ・ラボにおいて、授業の事前事後学習を深めるために有益な図書やウェブサイトを案内する「授業資料ナビゲータ」を作成するとともに、学習のための教材コンテンツを電子的に流通・利用するための環境整備に向けて、国内18大学によるコンソーシアムを発足させ、関係機関との協議等を展開している。
- 金沢大学及び長崎大学との間で、それぞれの強み、特色を生かした予防医学分野の共同大学院の設置に向けた連携を推進する計画を定めており、平成26年度においては、教育カリキュラムや教育手法等について協議・検討を重ね、3大学の特色を相乗的に組み合わせた体系的なカリキュラムを構築するとともに、3大学による教育を効果的に行うため、遠隔講義システムやウェブネットワークを活用した関連設備の試行準備（仮想教室の設置）を実施しているほか、共同大学院における海外教育プログラムである海外フィールド実習の実施を見据え、WHO（世界保健機関）における教員・学生研修を試行的に実施している。
- 医療系3学部（医学・薬学・看護学）と附属病院が結集した^{いのほな}亥鼻キャンパスにおいて、次世代の多様なニーズに応える医療人を総合的に育成するため、司令塔となる「未来医療教育研究機構」を平成26年度に設置するとともに、既存のセンターや研究部門、講座の再編を行うなど教育研究組織を整備する計画を定めており、平成26年度においては、医薬バイオ分野の知的財産業務等を行うとともに、^{いのほな}亥鼻キャンパスの各部局においても、医学研究院に未来医療グローバル治療学研究講座及びイノベーション治療学研究講座等、教育研究組織の設置を進めるなど、本構想実現に向けた取組を推進している。
- 「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」構想の実現に向け、授業科目ナンバリングの導入、「国際日本学」の必修化によるカリキュラムの見直し、ASEAN大学ネットワーク（AUN）との連携推進による共同学習プログラムの開発を行うとと

もに、入学定員・教員等の学内資源の再配分による新学部の設置準備を行う計画（平成 26 年度に中期計画を変更）を定めており、平成 26 年度においては、文理混合の新たな教育により、国際社会で活躍できる次世代人材を育成する国際教養学部（仮称）の設置構想を取りまとめるとともに、設置にあたり入学定員・教員定員の全学的な再配分を行うことを決定している。

（機能強化に向けた取組状況）

学長の基本方針として「TOKUHISA PLAN 2014」を策定しているほか、学長を補佐する副学長を 4 名から 8 名へと倍増して学長が全学的なリーダーシップを発揮できる体制を強化するとともに、教員を対象とした適切な業績評価に基づく年俸制の導入、クロスアポイントメント制度の平成 27 年 4 月からの導入を決定するなど、人事・給与システムの弾力化を推進している。また、社会の変化に対応した教育研究組織づくりとして、再生医学や疾患 iPS 細胞を利用した新しい治療学の研究拠点を形成する「再生治療学研究センター」や、部局横断的な全学組織で子供の心に関する教育研究を行う「子どものこころの発達教育研究センター」を平成 27 年 4 月に設置することを決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学長の全学的視点からのリーダーシップによる教育研究組織の再編に向けた取組

全学的視点からの学長のリーダーシップの下で、人文社会科学・自然科学・生命科学の学問分野を混合し、特定の専門領域に限定しない新たな教育課程を構築し、社会的学びや主体的学びという特色ある教育を行う「国際教養学部（仮称）」を平成 28 年度に設置する構想を取りまとめるとともに、新学部設置に向け、全学部の入学定員の見直しを行い、新学部の入学定員に措置すること等を決定している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ データ分析に基づく健全な病院経営体制の確立

附属病院において、入退院センターを開設し、新たに発足した周術期管理センターと協力し、病床の有効利用、在院日数の短縮に取り組み、成果を上げるとともに、平成 27 年度からデータ分析を行う経営戦略担当の特任教授を採用することを決定するなど、健全な病院経営を確立するための取組を推進している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 広報戦略本部の設置による積極的な広報活動の展開

全学的な視点から、広報戦略を策定し、積極的な広報活動を展開する組織として、企画担当理事を本部長とする広報戦略本部を 10 月に設置するとともに、広報戦略及び横断的な広報活動の企画・立案を行うため、同本部内に広報戦略室を設置しているほか、大学の「ブランディング」をテーマとした「学長と学部長等との夏季特別集中討議」の開催、広報アドバイザーやデザイナーの採用等により、広報活動を積極的に展開している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 個人情報の不適切な管理

平成 25 年度評価において評価委員会が課題として指摘した、個人情報の不適切な管理については、平成 26 年度においても、教員が学生の個人情報が含まれた USB メモリーを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントの強化に一層努めることが求められる。

○ 研究活動における不正行為

教員が他の研究者のパワーポイントのデータを盗用していた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 25 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、個人情報の不適切な管理事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ グローバル教育の展開

学部を越えた横断型の第二の教養教育プログラム「国際日本学」では、普遍教育科目と専門教育科目を合計 1,140 科目開講しており、特に平成 26 年度からの新たな海外初心者向けアジア有力大学短期派遣プログラムである「BOOT (Begin One's Overseas Trial)」等、複数のアクティブ・ラーニング型科目を提供することにより、グローバル教育を実践している。

○ グローバル化に向けた学事暦の柔軟化

8 週間（1 ターム）で完結する科目設定を可能にし、教育の質的改善を図るとともに、ギャップタームを創出し、留学やインターンシップ、ボランティア等学生の多様な社会体験の機会を確保し、自主的で主体的な学びを促すことを目指す「千葉大学におけるターム制の導入等に関する方針」を策定しており、平成 28 年 4 月の全学導入に向けて、高等教育研究機構が主体となり、各部局と緊密に連携し、教職協働により計画的に取組を推進することとしている。

○ 高校生を対象とする早期教育プログラムの展開

大学・高校・教育委員会がコンソーシアムを構築し、高校生を対象に早期からの高度な科学体験・教育を提供する「高大連携での科学教育コンソーシアムによる『次世代才能スキップアップ』プログラム」を実施し、早期から高等教育を受けることがで

きる環境を整備しており、「秋飛び入学（高校3年生に対する9月入学）」や「飛び入学」と連動することにより、シームレスな高大接続の促進に取り組んでいる。

○ 亥鼻キャンパス高機能化構想の実現に向けた積極的取組

亥鼻キャンパス高機能化構想の司令塔として、7月に設置された「未来医療教育研究機構」において、専任教員を雇用し、知的財産業務として、医療関連研究のシーズを系統的に探索し、基礎研究の成果を臨床研究・実用化につなげるマネジメント業務を実施しているほか、革新的な治療学創成研究の活性化と治療学シーズを基盤とした亥鼻キャンパスに活動拠点を置く研究者の連携強化を目指した研究助成等を行っている。

○ 世界トップの分子キラリティーに関する学際研究・国際活動の推進

「融合科学研究科附属分子エレクトロニクス高等研究センター」を発展的に改組し、「融合科学研究科附属分子キラリティー研究センター」を平成27年4月に設置することを決定しており、融合科学研究科における光の「キラリティー」による物質制御を中心に、キラルフォトンクスと分子エレクトロニクス、さらに、他部局の最先端の化学系・生物系研究者と連携・統合することで、世界トップの分子キラリティーに関する学際研究及び国際活動の推進を目指している。

○ 地域課題の解決に向けた学生と地域住民の協働参加による取組

少子高齢化時代の地域課題に取り組むため、高度経済成長期に建設された団地で、少子高齢化等に起因する多くの課題を抱える千葉海浜ニュータウンをモデル地区とし、全国初の「郊外型廃校（旧千葉市立高浜第二小学校）」を活用した「サテライトキャンパス美浜」を開校しており、ワークショップを通して考える授業「廃校小学校に大学をつくる」の一環にキャンパスの活用方法の検討を組み込むなど、学生と地域住民の協働参加による取組を実施している。

共同利用・共同研究拠点関係

○ 地球温暖化の課題解決に向けた大学間連携の推進

環境リモートセンシング研究センターでは、地球温暖化の課題解決に向けて、新たに4大学（東北大学、千葉大学、東京大学、名古屋大学）連携の地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーを形成し、公募による国際共同利用研究を5件実施するとともに、小型の無人航空機を活用した共同研究を推進している。

○ 全国の大学病院をはじめとする医療機関とのネットワーク構築

真菌医学研究センターでは、真菌の「ゲノム解析」についての研究等、これまで行ってこなかった異分野との連携を行うとともに、全国の大学病院をはじめとする多くの医療機関からスムーズな検体の受入れやコンサルテーションを開始できるよう研究システムを整備するなどのネットワークの構築を進めている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 多様なニーズに応える医療人を育成するための機能強化

亥鼻キャンパス高機能化構想の司令塔として設置された「未来医療教育研究機構」において、専門性の高い放射線科や病理部等に研修を導入するなど卒業臨床研修プロ

グラムを改善するとともに、海外の先端的な医療技術等を習得するための「在外派遣研修事業支援」等を実施することにより、附属病院における次世代の多様なニーズに応える医療人を総合的に育成している。

(診療面)

○ 多職種による有害事象の低減等に向けた取組

転倒・転落防止及び有害事象の低減に向けて、多職種によるワーキングを行い、患者向け転倒・転落予防 DVD を作成し、院内放送を開始するとともに、転倒・転落時の初期対応フローチャート、転倒・転落リスクを高める薬剤の一覧表、転倒予防製品の紹介パンフレットの作成を行っているほか、患者の身体機能評価に基づくリスクに応じた対策が実施できるよう、「転倒・転落アセスメントシート」を改訂し、運用を開始している。

(運営面)

○ 医療の国際展開の推進

海外からの患者誘致・受診支援の推進や医師・研究者等の研修受入れを強化するため、新たに「国際医療センター」を設置しており、ロシア国民経済行政学アカデミーから日本の医療制度や先進技術、病院運営を学ぶために来日した医療機関の病院長・副病院長等の視察の受入れを同センターが中心となって行うなど、医療の国際展開を推進する体制を構築している。